

大日本古文書収載島津家文書「左衛門尉盛景」の比定

2020年9月23日

酒匂 貴市

島津家文書「左衛門尉盛景」

東京大学史料編纂所古文書フルテキストデータベースで検索すると、大日本古文書収載島津家文書に「左衛門尉盛景」なる人物は二か所に現れる。ひとつは1298年付505番「左衛門尉盛景書状」(<https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/850/8500/05/1601/0503?m=all&s=0503>)であり、前文の信濃太田荘神代郷内中尾村に関する判決を記した504番「関東下知状」を受けて、島津家被官の姉崎八郎右衛門入道あてに中尾村勝訴の報告と、伊作荘の訴訟の行方について難しさなどを語っている。豊野町誌[豊野町誌刊行委員会]は、この史料について「書状を書いた左衛門尉盛景は、現在行われている訴訟の進行状況を熟知し、鎌倉にあって島津家の訴訟を担当している沙汰代官であったものと思われる。」と指摘している。もうひとつは、298番「島津氏譜代相伝重書案」(<https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/850/8500/05/1601/0255?m=all&s=0261&n=20>)であり、裏面には島津忠宗の花押があるとされ、最初の部分に「以上廿五通正文請取(うけとり)畢」とあり、島津忠久以来の下文・関東下知状・関東御教書から1305年8月7日付けの島津忠宗宛関東下知状までの案文があり、最後に

以上廿五通正文は、鎮西御下向の時、備進の日、目六(目録)之を書き副える所なり

嘉元三(1305)年八(九?)月六日 左衛門尉盛景

とあり、島津家惣領の島津忠宗から島津家伝来の重要文書を一時預かっていたものと見られる。左衛門尉盛景が訴訟を統括しているので、文章を預かったのは鎌倉での訴訟の為であろう。

酒匂左衛門尉

同じく大日本古文書収載島津家文書に519番「伊作島津氏重書目録」があり、その中に「鎌倉ノ酒匂氏二預ケシ文書」と解説のつけられた「かまぐらさかを(酒匂)さえもんにあ○きたうる御もんのあんら」(<https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/850/8500/05/1601/0523?m=all&s=0534&n=20>)がある。在鎌倉の酒匂左衛門尉が伊作島津氏の重要文書を預かっていたその案文が伊作島津氏に伝わったということである。これは298番「島津氏譜代相伝重書案」と符合している。さらに、大日本古文書収載島津家文書527番「薄葉景光太田庄神代郷代官職請文」をみると、太田庄神代郷の地頭島津久長への年貢から除かれる分として「酒匂左衛門尉給中尾分」が設定されており、酒匂左衛門尉がまさに中尾村に給田を持っていたことが知れるのである。

ここで、改めて中尾村の判決文である504番「関東下知状」の件名をみると

伊達判官代入道念性女子尼妙海代定仏と嶋津下野三郎左衛門尉忠長(久長)代景光 相論信濃国太田庄神代郷内中尾村事

となっており、島津久長の弁護士役の代官はのちに神代郷の代官となる薄葉景光が務めている。これは明らかに訴訟に関連しての起用であり、中尾村の酒匂左衛門尉の給田も同様と考えられる。つまり、酒匂左衛門尉と左衛門尉盛景は同一人物「酒匂左衛門尉盛景」であり、鎌倉にあって訴訟を統括し、そのために島津家伝来の重要文書を惣領島津忠宗から預かり、薄葉景光を実務担当者として訴訟にあたらせて勝訴し、中尾村に給田を与えられ、また、島津家伝来の重要文書のコピーを島津久長(伊作島津氏)に伝えたのである。

この時期、島津家惣領忠宗は薩摩の掌握に力を入れており、博多では酒匂本性(兵衛入道称阿)が守護代として異国警固の指揮を執るなど島津家の No.2 として活躍していた。酒匂左衛門尉盛景は在鎌倉の同族の人間として島津家の信を得ていたのであろう。しかしながら、酒匂左衛門尉盛景は酒匂本性を通じてではなく、独立して島津忠宗・久長に仕えているのであり、酒匂本性の単なる代官ではないと見受けられる。

同時期の 1306 年、六波羅探題の使者として酒匂左衛門八郎がおり、金沢貞顕が六波羅執権探題であった[相模武士三 中村党・波多野党 湯山学]。鎌倉末期の 1331 年の赤坂城の戦いで、和泉の御家人和田氏は攻撃に加わり、「大將軍武蔵右馬助(金沢貞冬・金沢貞顕の子)殿御代官酒匂宮内左衛門尉」がその戦功を証明しているとしている[楠木合戦と摂河泉の在地動向(上)-悪党の系譜をめぐって- 堀内和明 立命館文學 立命館大学人文学会編 <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/rb/617/617PDF/horiuchi.pdf>]。酒匂宮内左衛門尉は金沢北条氏の被官として行動しているのであり、酒匂左衛門八郎もその可能性が高く、酒匂左衛門尉盛景は酒匂左衛門八郎の父であり、もともとは在鎌倉の金沢北条氏の被官の家で、酒匂本性の縁で島津家の代官としても活動するようになったのではないかと推測される。